

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

4号

2005年3月20日



“まちファン”は新しい発見の場。

「こんなこともできるんだ!」

「こんなやり方もあったんだ!」

「こんなひともいるの!?!」

まちに眠る貴重な資源の湧きでる源泉です。

だれもが「すみよい」まちを望みます。

それは「だれか」がつくってくれるものではなくって

「わたしたち」がつくるもの。

お互いにお互いのできることをしあって“まち”ができます。

でも、「つくる」っていても たいしたことはできないし...

そんなとき、「まちファン」はヒントをくれます。

わたしたちにもできることを気づかせてくれます。広げてくれます。

そして、新しい「まちづくり」が生まれ、

またその次の「まちづくり」のヒントになります。

“まちファン”は、そんな連鎖の触媒です。

びっくりがれ! 「わたしたちにもできること」

目次

2004年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 第2回中間発表会の流れ・運営委員コメント	2ページ
プレゼンテーション 「まちづくりははじめの一步」コース	3ページ
プレゼンテーション 「まちづくり一歩前へ」コース	4-6ページ
中間発表を終えて・今後の予定	7ページ
中間発表会アンケート	8ページ

中間発表会の流れ

2005年1月29日(土)に、公益信託「高知市まちづくりファンド・第2回中間発表会」が開催されました。参加者(応募団体と一般参加)は約50名で、2004年8月1日(日)開催の第2回公開審査会において、助成決定を受けた11団体が、事業の進ちょく状況を発表しました。それぞれの前向きな取り組みに触発を受け、意見交流時には様々な意見を出し合い、ネットワークを相互に結ぶ光景も見られました。

1 プレゼンテーション



各事業の進ちょく状況とともに、工夫している点、困っている点などを3分間で発表。参加者に、各事業についての質問・良い点・提案・その他の意見など、付せんを書いてもらう。

2 付せん貼リタイム



記入済みの付せんを団体ごとに貼ってもらう。

3 意見交流



運営委員が団体ごとに貼られた付せんの内容を紹介し、参加者との意見交流を実施。

運営委員コメント



運営委員長：卯月 盛夫 (早稲田大学教授)

中間発表会は「まちづくりのシンポジウム」というような感じで、実現できなかったことがあれば、なぜなのかを考え、またうまく進んだ事例があれば、その秘訣を紹介していただき、まちづくりの経験をみんなで共有し合う場にしたいと思います。



運営委員：木村 重來 (元高知市市民生活部長)

まちづくりは、そこに暮らす市民の「まち」に対する愛着や、こだわりから始まると思っています。出会うことのできた多くの皆さんの取り組みは、先が見えづらい環境の中であって、まさにかけがえのない貴重な実践であると思います。



運営委員：玖波井 加代子 (元よさこい高知団体ひとりひとりとやぐらボランティアコーディネーター)

皆さんが応募された時の実施予定を見ながら、「この辺までは進んでいるかな」と思いを馳せたり、「どんなふうになっているだろう」と想像を膨らませたりしています。今日の中間発表がとても楽しみです。



運営委員：田岡 真由美 (株) 相愛)

これからは企業も市民の活動を様々な形で応援していかなければならないと思います。そのために企業はどのような形で関わっていくのか。また、企業が市民の一部として活動するためには、どうすればいいかのヒントを得られればと思っています。



運営委員：半田 雅典 (高知県ボランティア・NPOセンター)

市民活動が多彩になり、広がっているということを見て、日々皆さんの活躍を見て実感しています。今日は、皆さんの活動成果と併せて、人や資金の問題、他組織との連携など、組織を運営していくうえでの課題や、苦勞されている点もお聞きしたいと思います。



運営委員：堀 洋子 (社) 高知県建築士会)

2回目のファンドとなり、まちづくりの形も広範囲に、いろいろな形が出てきています。特に中心街区の住民不在のまちづくりなどは、私の課題のひとつでもあります。今日の中間発表を楽しみにしています。



運営委員：増田 和剛 (高知中・高等学校教諭)

2年目に入り、ファンドの位置づけもかなり定着しはじめた今、新聞紙上でも皆さんの活動を目にする機会が増えました。また、様々な団体が意見交換の場としてのもう一つの面で、ファンドをフル活用した活動を今後期待しています。

感謝

公益信託「高知市まちづくりファンド」誕生から、運営委員を務めて下さいました藤塚吉浩氏、海老塚和秀氏が2005年3月31日(木)をもちまして、退任されることとなりました。当ファンドでは、2003・2004年度にわたり、より良いまちづくりを目指して、応募団体への貴重なご助言を頂き、ファンド運営において多大なるご尽力を賜りました。

副運営委員長：藤塚 吉浩 (高知大学助教授)



公益信託高知市まちづくりファンドの運営に最初から携わる貴重な機会を賜り、感謝いたします。まちづくりファンドの種をまき、みなさんのまちづくり活動の進展という芽が出てきたことを実感し、本当に嬉しく思います。この芽が大きな木に育ち、すばらしい成果が実ることをたいへん期待しています。運営の方からは離れますが、これからも見守っていきたく存じます。2年間本当にありがとうございました。

運営委員：海老塚 和秀 (五台山竹林寺住職)



まちに顔が見えてきた。これが2年間、ファンドに携わった率直な感想です。地域に根ざして、まちを元気にしていこうとする人たちがいる。その人たちの顔が見えてくる。住む人の熱い思いがまちを輝かせるのです。また、当ファンドのよい点は、審査や発表が公開であること。各団体の刺激や参考の場となるとともに、そこから新しいつながりが生まれる。当ファンドが高知の元気の発信源として、さらに発展するよう願ってやみません。

Group 1

子育てを楽しくするための支援活動

育児サークル「トトロ」



子どもたちにとって一番大切な社会資源は、そばで温かく見守ってくれる大人が1人でもたくさんいること。子どもたちが伸びやかに育つために

何をすべきか、地域とともに考え、月4回、育児サークルを開いている。また、ピース教室、子育て支援センター「あい」での大運動会、のいち動物公園、クリスマス会、焼き芋大会などの季節行事の他、トトロ通信を発行している。



Q: 活動頻度、参加者募集の工夫、また事業の効果は?

A: 活動は月4回。広報は、郵便局、三里ふれあいセンター、文化会館に、トトロ通信を毎月掲示している。だが、何といても口コミによる反応の確率が一番高い。効果としては、今、コミュニケーションをとれない母親が多いので、こういう場があることによって、悩みを打ち明けることができ、そこから次々と広がりが出ているように思う。

VOICE

- ・トトロ通信は継続的な情報発信をしていて良い。また情報量が多く、丁寧な仕上がりである。
- ・育児に埋没せず、社会的な視野で、積極的に他と関わり合っていく姿勢が良い。
- ・子育てを支援することは親たちを支援すること。小さな家庭ではカバーしきれない部分の活動を、コーディネートすることは素晴らしい。

Group 2

観光案内商店街

カフェナビプロジェクト



はりまや橋商店街の一角を借り、観光案内をした。地域の社会人からのアドバイスには、改善点や学ぶ点が多くあった。今後毎月1回、カフェナビを実施したい。

また、2、3月で基礎固めをして、簡単な地図を制作し、紹介するお店のリストアップを考えている。4月からは、帯屋町商店街の協力を得て、観光客に喜ばれるカフェナビを実施していきたい。



Q: ステッカーはどういうもので、観光客の反応はどうだったか?

A: コルクボードに白い紙のようなものを貼り、ショーウィンドーの前にかけてもらった。観光案内をしていることがわかるよう活動の内容を説明した看板の書き方を、はりまや橋商店街の方にアドバイスしてもらったが、外に向けて発信するという意味では不十分であったようで、観光客へ高知の魅力をいかに伝えていくかが今後の課題。

VOICE

- ・高知の観光振興にとって大変良い。同じような目的で活動している他のグループとも共同できると更に有効。
- ・学生が自らまちに出て、観光案内(カフェナビ)をしたのが良い。
- ・案内の仕方のマニュアル作りもお願いしたい。
- ・観光客に提供すると共に、何か得られるものもあれば、交流という意味で良い。

Group 3

活動したい学生のみならずボランティアニーズのマッチングをはかって、げんきな街こうちの力になる!

こうち学生ボランティア「ボラの会」ネットワーク



ボランティアニーズをもっている人や団体と、ボランティアをしたい学生とのマッチングを図ることが主な目的。現在、会員数は80名だが、

名刺を配布したり、オフィシャルサイトを立ち上げるなどして会員を募集。今後はリーフレットもつくる予定。2月に開催する「ボランティアキャンパス」での分科会やパネルディスカッションでは、ボランティアについての理解を深めてもらいたい。



Q: ボランティア情報の収集方法、認知度アップの手段は?またどのようなニーズが多いか?

A: 最初は、ファンドや参加したイベント先で、ボランティア情報を頂いていたが、最近はちらしやホームページにより、直接メールを頂く。助成金で名刺を作り、現在、情報発信先へのリーフレット制作中。マッチングとして、スーパーのクリスマスケーキを福祉施設に提供したり、児童クラブの子どもの相手の募集、「秦山の竹林と友達になろう会」のイベントにスタッフとして参加したりした。

VOICE

- ・学生のボランティアネットワークに大変期待している。
- ・発表の資料が見やすく良い。
- ・コンタクトがとりやすかったので、文化祭などで宣伝するのは良いと思う。
- ・自分は学生であるが、あまり情報が入ってこない。アプローチの仕方を工夫した方が良い。

「まちづくり一歩前へ」コース

プレゼンテーション

Group 1

ふれあいスポーツひろば

田中きよむゼミ



第2回 中間発表
月1回、あおぞら共同作業所の裏のグラウンドでサッカーをしている。障害のある参加者は、前日になるとテンションが上がり、作業も積極的になる。また、実家に帰る日をずらす程、楽しみにしているようで、笑顔になることが増えた。1対1でできる練習メニューや、休憩を多くとるなどの工夫をしている。昨年はクリスマス会も開いた。この活動が物事に積極的に取り組むことへのきっかけとなれば嬉しい。

Q: 次年度の体制の見込み、体が不自由な方に変調が起こった場合の対応、事業の効果は?

A: 作業所の職員からも継続の希望があるので、ぜひ引き継いでいきたい。対応は、頭に衝撃を与えないようヘディングは避け、心臓の弱い人もいるので、休憩をできるだけ多くとっている。万が一、怪我をした時のために、スポーツ保険に入っている。効果は、障害者に笑顔が見られるようになり、自信のついた様子が見られること、学生側も障害者との垣根が取り除かれたこと。



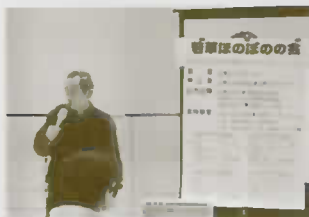
VOICE

- ・素晴らしい笑顔が増えたというのが良い。
- ・サッカー以外の活動もあり、良かった。これからも幅広く活動してほしい。
- ・有意義な活動なので、継続していくよう期待している。
- ・今後、事業効果の分析もしてほしい。

Group 2

若草ミニデイサービス

若草ほのぼのの会



実施事業は、防災の月である9月に新しい救急車の利用方法を学び、10月に越知町へコスモスを見に行った。11月がミカン狩り、12月はもちつきで、1月は福笑いや二人羽織をした。町内全体がひとつになって活動している。また、協力団体への日程調整や、「在宅介護支援センターあさくら」さんに、バスなどの協力をしてもらうなど、工夫をしている。

Q: 参加者を増やす工夫、参加者の反応、資金継続の見込みは?

A: 100人程いる老人クラブや、各町内を4つに分け、案内状を出してお知らせしている。内容によって、参加人数のばらつきはどうしても出てくるが、「他の地区ではやってもらえないので、友人を呼んでも構わないだろうか」という声もある。資金については、地区社会福祉協議会にお願いし、補助の検討をしている。



VOICE

- ・活動が順調に、自分たちのペースで行われており、良いと思った。
- ・いろいろと行事があつて、頑張っている。
- ・高齢者のための活動内容、働きかけなど、参考になった。
- ・ファンドを通して、相互の関係が深まっていくことを期待している。

Group 3

竹との共生をキーワードとした、住民参加による里山保全活動の実践と啓発

泰山の竹林と友達になろう会



第2回 中間発表会
地区の人たちが適切な間隔を置きながら、モウソウダケを切る作業をしている。地権者の承諾を得て、5カ年計画で子どもたちと次のステップを考える場所づくりをし、炭焼きや、12月に開催した第3回里山祭りでは、竹を使った楽しい遊びをした。子どもと大人の触れ合いが目的で、約1,200人の参加があった。指導員に恵まれ、現在、今後のテーマ絞りを行っている。里山を子どもたちに残すために頑張りたい。

Q: 参加者が多いが、どのような工夫をしているか?組織のメンバーは増えたか?

A: PTA、社会福祉協議会、町内会、学校など、各種機関の広報を積極的に活用。マスコミ各社にも報道して頂いた。まちづくりのコミュニティ計画推進市民会議は、毎月開いている。子どもたちが喜ぶ企画、フリーマーケットが増えた。竹を利用した竹遊びコーナーも、「森と緑の会」のご支援を頂いている。組織のメンバーは、中学生から80歳まで、サプリーダー的な方が10人程いる。



VOICE

- ・竹を切るだけでなく、利用できているのが素晴らしい。遊びに工夫があつて良い。
- ・竹林を抱える他の地域の方へ、工夫された点をアドバイスされると良い。
- ・参加者の声などが聞けると良いと思った。
- ・自然環境、世代間交流など、いろいろなテーマに取り組みされている。

Group
4

土曜市にいこうちや

いこうちや



土曜日活性化のために「いこうちや祭」を開催する。「コミュニケーション、活気、バラエティー」がテーマで、販売だけではなく、若者の発表の場、

世代を超えた人と人との交流を通じて、実現したい。イベントでは餅つきをし、4種類の餅や、おしるこを完売した。今後は広報に力を入れ、個人で出店したい高校生のプランに対して、サポートを行いたい。



Q: 土曜市の良さ、継続の見込み、商店街の反応は？

A: 土曜市は、日曜市よりゆったりしている分、交流が深められる。継続については、3回生だけではなく、1回生や2回生を引き込んでいこう、メンバーを幅広く集めているところ。商店街には今のところ、宣伝や、「一緒にやりませんか?」という呼び掛けはしていないが、今後やっていきたいと思う。

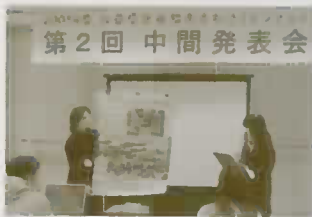
VOICE

- ・若者たちへの関心の広がりを楽しみ。
- ・日曜市に規模で勝つことは難しいが、差別化を全面に押し出しているの、うまくいくと思う。
- ・終戦記念日に、お年寄りのアドバイスや手助けを頂き、すいとんの炊き出しをしてみたい。
- ・イベント発信だけではなく、土曜市の良さも伝えていけば、賑わいも出てくると思う。
- ・出店している土曜市のメンバーと一緒にやれば、継続できる事業だと思う。

Group
5

子育てを通して温かい三世代交流の和

子育てサークル みかづ・キッズ



月2回、教育体験教室、段ボール遊び、敬老の集い、音楽リズムミルキーランドコンサート・ハロウィーン、リサイクル楽器作りなどの活動をしてきた。3世代ふれあいコンサートでは、高知市消防音楽隊、女性コーラス隊、初月幼稚園コーラス部の協力を得、

入場者数は約120名、あらゆる年代の人に参加してもらい好評だった。5月には3世代交流健康体操大会をする予定。



Q: 企画の仕方、役割分担、運営側に巻き込んでいく上での工夫は？

A: 地域に密着し、親しんで頂くために企画したのが「三世代ふれあいコンサート」や、「敬老の集い」。普段はスタッフ5人だが、大きな事業では、子ども好きな方、初月ふれあいセンターの運営委員、民生委員、町内会長にも声をかけさせて頂いている。スーパーや、町内会の掲示板を利用し、保育園、幼稚園、小学校で、口コミの宣伝をしている。

VOICE

- ・子育て、高齢者支援の活動が一緒にできており、良いと思う。
- ・活発な活動が目立つ。その活動エネルギーに敬意を表する。
- ・演奏会など、小さな子供が参加できないものも多くあるので、いい機会を提供されていると思う。
- ・参加者人数など、思わぬことに対応することで、サークルの力も付き、連携もとれるようになると思う。

Group
6

演劇によるより豊かな文化・芸術のまちづくり

高知演劇ネットワーク・演会



高知大学演劇研究会の加入により、参加10団体となり、ネットワークを拡充することができた。富山県や静岡県へ研修、視察に行き、世界で有数の

劇団の来高、作品共同制作の足掛かりとなった。また、高校生や小学生、PTAに対して演劇とコミュニケーションなどのワークショップも数回できた。今後、幹事会や学習会を開き、文化行政に積極的な提言をしたい。2005年4月と6月に、演劇祭を予定している。



Q: 苦勞している点、様々な団体とネットワークを広げていくのに、工夫している点は？

A: アーティストたちの拠点づくりを考えているが、共通会場となるところを検討中で、苦勞している。ネットワークは、高知での演劇部門を更に拡充していきたい。高知大学演劇研究会が演劇祭に参加してくれることになり、大変心強く思っているが、お互い後々まで活動していけるよう、アプローチを常にすることを心掛けている。

VOICE

- ・分野を越え、地域を越えて、ネットワークができ、良かった。
- ・子どもたちのワークショップが良い。将来に向けての展開を期待する。
- ・演劇を通じて、高知を広めて欲しい。実施期間を過ぎても、継続してほしい。
- ・聴覚者も一緒に楽しめるよう、字幕付き公演なども考えてもらえるとうれしい。

若者によるまちづくり委員会



定期的に実行委員会を開いている。実行委員数は32名。これまで「土曜市ダンスコンテスト」、土佐町「やまびこカーニバル」、高知JCの「神嘗祭」に参加。

また、県立塩見記念青少年プラザで、実行委員がダンスの講師をした。今後は、高知ストリートダンス大会を3月に予定しており、予選は商店街で、本戦は中央公園で行う。ゲストチームに韓国のギャンプラーという、世界のトップダンサーを招く。



Q：深夜に及ぶ練習での中高生への配慮、ダンス教室の参加人数は？
店主の反応、今後の予定は？

A：今、練習をしているのは高校生だが、保護者全員に了解をとっている。場所は、城西公園、龍馬スタジアム、中心商店街。ストリートダンスは約7名、ブレイクダンスは約30名。商店街にはテレビ放映により、認知をして頂けた。来年、独立行政法人福祉医療機器基金からの助成で、中心商店街の空き店舗を借り、練習場を作る予定。再来年は、車いすに乗った方や高齢者も参加できるようにしたい。

VOICE

- ・ダンスを通じて、まちづくりを行うという視点がおもしろい。
- ・まちづくりファンドの優等生という感じがする。ギャンプラーを呼んでくれて、ありがとう!!
- ・アートのジャンルとして、精力的な活動を心強く思う。
- ・3月のイベントの成功を祈る！頑張れ、若者たち！頑張れ、オバちゃんサポーター！

はりまや橋商店街振興組合



「みんなと共に歩む、地域を元気にして自分たちも元気になる」という活動の一環として、昨年10月に「なつかし写真館」の1回目を開催したが、

初対面の人も会話が進んで、おもしろかった。1回目は、個人や土佐電気鉄道など、いろいろなところから写真を借りた。また、写真を新たに提供してくれる人と出会うなど、広がりがでてきた。2回目は、春から夏にかけて開催する予定。



Q：ネットワークの広がり秘訣、今後の課題は？

A：秘訣は、イベントとの組み合わせによる相乗効果。また、定期的に、はりまや橋商店街サロンを開くことで、いろいろな人が訪れ、写真により会話も弾む。今後の課題は、子育て、高齢者介護、商店街の活性化という3本柱で活性化を考えているので、若い人との交流が大事になってくる。若い人の目を向けるような時代の写真も展示したい。

VOICE

- ・過去の写真を使って、戦前のまちを再現するような地図を作成してみると、おもしろい。
- ・商店街での手作りイベントの発展に注目。今後もユニークな企画を期待している。
- ・中心街区でありながら、地域のコミュニティの場となっているところが良い。
- ・せっかく良い材料(写真)が揃いながら、展示の仕方が引き立たなかったという話を聞いた。アーティストも巻き込んで、一流の展示になるよう頑張してほしい。

助成先団体となっていた「RinK」(学生エディターが発信! まちびと本)より、助成取り下げの申し出があり、2004年12月1日に四国銀行へ助成金(30万円)が返還されました。グループの本部の方針が定まらないままに助成申請をしたので、返還した助成金は、また有効に使って頂きたいとの報告がありました。

公益信託「高知市まちづくりファンド」に 応募 しませんか!?

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場になることを目的としています。多くの人にまちづくりに関心をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営を目指しています。

「まちづくりはじめの一步」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 定額5万円(活動事業費が5万円未満の場合は、全額助成)

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をして頂きます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 活動事業費の3/4以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、応募団体は活動の内容について発表をして頂き、公開審査で助成先を決定します。

本日

の会は、「まちづくりを具体的に、どのように進めたいか」という実践セミナーのような印象でした。大きく三つのグループに分けて感想を述べたいと思います。

一つ目

は、非常にベシッくな市民活動を実践しているグループです。子育ての「トトロ」、「みかづ・キッズ」、ミニサービス「若草ほのぼのの会」と「泰山の竹林と友達になろう会」です。子どもや高齢者、緑化や環境という領域は、市民のニーズは極めて高いにもかかわらず、今の行政と企業だけでは、なかなかサービスが行き届かないというのが現状です。したがって、そのニーズをどうやって顕在化し、形にするかということが難しいのですが、この四つのグループの方々は、それぞれ異なる工夫をしています。「トトロ」の山本さんの「私はいろいろな人と話すのが好きだから、声掛けちゃうんです」という発言に、このグループのキーになる考え方があったと思います。その後、「勇気をもって」ということを軽く言っていましたけれども、これがなかなか難しいです。自分のやっている活動に必ずしも自信がもてないから、勇気をもって一歩踏み出して、声をかけるといのは結構難しい。このグループを、「巻き込み上手です」と半田委員が言われていましたが、私も同感です。本当は、市民みんな望んでいる事ですから、自信をもって一歩踏み出せば、必ず待つている人もたくさんいるだろうなという感じがします。今後ますます、高知を進めていく欲しいグループです。

二つ目

は、「高知らしい」といつも思っている、学生の方々の活動です。

「ボラの会」、「カフェナビプロジェクト」、「うちや」、「田中きよむせみ」の四つです。「ボラの会」は総合的に、「カフェナビプロジェクト」は商店街、「うちや」は食、「田中きよむせみ」はスポーツがテーマです。

これらの活動の特徴は、地域のニーズというよりは、とにかく学生が自由に伸び伸びと、自分の中からわき上がってくるような新しい発想力を、社会との関係の中で実践しているということです。専門家が思い付かないようなユニークな発想がポイントです。世界の先進的なまちづくりを調べていると、大学を卒業して間もないぐらいの世代の人たちの発想が実は多いのです。ユーザーに近い所にいるのが重要な点でしょう。それが四つもあるとなると、これはやっぱり「高知の特徴的なかな」と思います。その中では、「田中きよむせみ」の「スポーツを通じて、障害者をおもちの方の笑顔を増えています」という言葉が、今日とても印象的でした。

三つ目

のグループは、「はりまや橋商店街」、「高知演劇ネットワーク・演会」、「若者によるまちづくり委員会」です。これらはもっとパワフルです。大学生だけでなく、中学生、高校生も含んでいる、「アート・文化の領域で」。「地域社会のために何かやろう」という発想ではなく、「自分がやりたいからやろう」というグループ、これも非常に高知らしいですね。こういうものをきちんと評価支援しないと、高知らしさが生まれてこない。

まちづくりファンド
第2回中間発表会を終えて
運営委員長 卯月盛夫

とても印象深かったのは、「このまちづくりファンドとテレビでグループが認知される」という点です。最初はたった二人の思いつきかもしれないけれど、それを「いいことじゃないか。みんな応援してやろうじゃないか」と、そばに居る数人が応援する。次に、「このファンに応募する。そして支援が決定すると、四人だった活動が、この五十人ぐらいの中で認知される。そして面白い活動は、新聞やテレビに出るとい形に展開し、突然何百人、何千人という人が知ることになる。テレビで見たら、一度見に行ってみようか」ということになる。完全に高知市民に認知され、それが「高知らしさ」のひとつになる。このステップバイステップで進んでいくプロセスは、市民の人たちの絶え間ない努力によって展開する。そういう認知が進んでいくということが極めて市民創造的で、まさに今、はりの言葉で言う「新しい公共」の誕生です。

また別な視点でいうと、公共空間の利活用という立場からも興味深いです。国民の税金で作った公共施設や道路は、もっと市民のアイデアによって利用され、活性化されるべきです。しかし、今の日本ではそれを認めていない。そのような規制緩和はもっと進めるべきです。日本には、利用できる場所はたくさんあるんです。道路はもっとアートやオープンカフェに利用されてもいい。だから、「若者によるまちづくり委員会」のお世話をして、漁師さんのように、「何か表現したい」という中学生や高校生と、「公共の場所」をうまく結びつけるような方がいらしたら、これもひとつの高知らしさになると思います。「高知演劇ネットワーク・演会」

にしても、「はりまや橋商店街」にしても、やはり文化や芸術、歴史という側面から、活性化に貢献していくと思います。

最後

に、「うちや」学生ボランティアネットワーク「ボラの会」の話です。「ボラの会」は、何か特定のテーマを見つけてやるといタイプではなく、高知で活動している市民を、結び付けようというネットワーク型のまちづくり活動を目指していると思います。目標が千人というのも、とても分かります。今日だけでも三つぐらいお呼びがかかっているようなので、やはり来年も、再来年も、ここに出てきて欲しい。NPO高知市民会議の方も、うまくネットワークをすることによって、何か困ったことがあったら「ボラの会」に助けを求めるといのもいいでしょう。そこで、いい形で人の輪を広げ、かつ広報もうまくやっていけたら、その学生パワーを生かせると思います。それはまさに、高知の学生ならではのことで、特に「ボラの会」のこれからは、大きな期待をしたいと思えます。

以上

感じたことを述べましたが、高知はこんなにも個性的な素晴らしい市民活動があるので、ぜひ今後継続してください。一回目から一回目に対して、助成の継続がつかないのはとても残念です。だから、一回目のこのグループは、夏に向けてさらに活動をバージョンアップさせて、ぜひ、来年度の活動企画にも応募していただきたい。それを希望しております。「熱いやすく、冷めやすい」ではなく、「熱しやすく冷めやすい」で是非お願いします。どうもありがとうございました。



まちづくりファンド 今後の予定 (2005年)

最終発表会・公開審査会はどなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

- 4月20日(水)
- 5月20日(金)~6月20日(月)
- 7月20日(水)
- 7月30日(土)
- 7月31日(日)

- 2005年度 第3回 応募用紙配布
- 2005年度 第3回 応募期間
- 2004年度 第2回 最終活動報告書提出期限
- 2004年度 第2回 最終発表会
- 2005年度 第3回 公開審査会



第2回 中間発表会 アンケート結果

① 中間発表会を何で知りましたか?

- 運営委員会からの案内 (12)
- 知人からの口コミ (6)
- センターだより「えぬびいOh!」 (1)

② 期待度を100%とすると、今日の満足度は何パーセントでしたか?

- 100% (5)
- 活動の幅を広げる場として利用できた
 - 初めて参加したが、どのグループも活動に対し、とても一生懸命で、すごいと思った。こんな活動をしているとは知らなかった
 - いろいろ勉強になった。自分ひとりでは見えない地域の力が見えたような気がした。もっともっと地域の人たちを巻き込んで、子どもたちにとって、よりよいまちづくりを進めていきたい

90% (4)

- 時間が3分間では発表しづらいので、質問時間5分間と合わせた調整ができないだろうか?
- 意見交換ができて良かった

85% (3)

- 前回と比べ、発表がスムーズに進んでおり、予定どおり行われた点が良かった。改善したい点は、参加に際して、発表の準備が不十分だったこと
- 課題を見つけることができた。自分たちが活動していく上で、今後の参考にしたい。プレゼンテーションと付せんを記入する時間が少ないと感じた
- 各団体にもう少し心のゆとりをもって発表させてあげたかった。3分+5分では厳しい。もう少し時間をあげたいと思う団体があった。プラスマイナス1分ぐらい、各団体で調整することができないだろうか?

80% (3)

- 他の会の人との交流により、コラボレーション(協力、共同)が期待できる
- もっと横のつながりができれば、更によくなる

70% (1)

- ファンドをもらうことによって責任が生まれる。またチャレンジしている姿を見られる

60% (1)

- 高知のいきいきした顔が見え、今後の活動の参考になった

無回答 (2)

③ 参加されたあなたの立場を教えてください

- 発表者 (9)
- 発表団体の一員として (6)
- まちづくりに関心のある一市民として (4)

④ あなたの年代を教えてください

- 10歳代 (1) 20歳代 (7) 30歳代 (2) 40歳代 (2)
- 50歳代 (5) 60歳代 (1) 70歳代 (1)

⑤ 自由記述

<感想>

- 頑張っているのは私だけじゃない!! こんなにたくさんの方が社会を良くしようと頑張っているのを見ると、ますます勇気が出る。ありがとう
- 付せんを書くためもあるが、審査会の時と違い、机があるので楽だった。配置も良かった
- 今後も引き続き、市民ファンドに応募したい
- 付せんに貼り付ける形は、ともしれば消えてしまいがちな意見までひろうことができるので良かった。各団体も生の声を直接聞くことができるので、大変参考になったと思う。また、「良い所」の項目に付せんを複数貼ってもらえて、心強かったと思う
- いろいろな人とつながれば、いいアイデアがでてくる
- いろいろな方面で頑張っている方々が高知にたくさんいて嬉しい。引き続き、頑張してほしい
- バラバラに見える活動も、根は同じ「まちづくり」。お互いに少し手を伸ばせば、「元気なまち 高知」になるかもしれない

<改善点>

- 駐車場をなんとか工夫してもらえると嬉しい。発表では、あと2~3分の時間がほしい
- 休憩時間(付せん貼りタイム)が長く、持て余し気味なので、半分に短縮しても良いのではないかと?
- 関係者以外の、特に若い人にPRをして、もっと参加者が増えると嬉しい
- 付せんでやりとりするのはすごく良い。最初にどんな項目があるか、もう少し詳しい説明をし、冊子等に記載があると良い

まちづくりファンドは、皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくことになります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆様のご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、
下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行 営業統括部 信託担当
〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
電話: 088-823-2111 (代表)
088-871-2178 (直通)
FAX: 088-824-0431

高知市市民活動サポートセンター

市民に利用して頂き、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を特定非営利活動法人「NPO 高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。



まちづくりファンドのニュースや応募、公開審査会に関するお問い合わせは、下記高知市市民活動サポートセンターまでご連絡ください。次回の発行は、最終発表会の後になります。

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665
E-mail: npokochi@siminkaigi.com
[URL] http://www.siminkaigi.com

